

文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel 0776-82-1141 Fax 0776-82-2261
【斉藤新緑事務所】〒913-0046 福井県坂井市三国町北本町2-1-20 京福三国ビル2F
【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp
【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

人に、まちに、いま、
元気の種をまこう。



ほっとらいん

VOL.55

しっかりちりちりします。

歩いていける範囲に生活圏を取り戻そう。「強くてやさしいまちを創る」「闘う県議会をつくる」をキャッチフレーズに、三期目の県議会選挙に立候補しましたところ、多くの皆様から力強いご支援を賜り、厳しい選挙戦を立派な成績(一一四〇〇票、県下一位の得票)で

勝ち抜くことができました。心から厚く当選御礼申し上げます。

多くの皆様の大きな期待に「しっかりこたえるため、さらに磨きをかけ、一生懸命頑張りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

一々拝肩の上、ごあいさつ申し上げるべきところですが、改選後、新しい議会組織の編成、会派のドタバタ劇、幹事長としての会派運営と初議会(6月定例会)の対応、参議院選挙、韓国クルーズと、

厳しい地方行政の運営を迫られています。

地方分権改革とは、だれもが住み慣れた地域で生き生きと暮らし続けていける社会にするため、人々により近い自治体に、できる限りの権限と財源を集め、人々の知恵と工夫と参加によって、地域に最もふさわしい公共サービスが多様に展開されるようにすることが目的です。

しかし、地方分権改革を国・地方を通じた財政再建のための手段としてしか考えない傾向もあり、第二期地方分権改革に入ったもの、いまだ改革の行方は混沌としているといわねばなりません。

都市であれ、農山漁村や離島であれ、全国どこでも「豊かな自治」を実現するため、



政治をあきらめさせない。
ハングリー精神で闘います。
(元世界チャンピオン輪島功一氏と。)

WBC 世界タイトル前哨戦、サンドーム福井で)



当選御礼



地方分権は自治体、首長、中央官庁などにとって様々な利害の衝突と既得権の破壊を迫られる激しい改革です。それ

昨日、自治体が財政破綻したり、裏金作りや首長等が「官製談合」に手をそめる不祥事が相次いでおり、厳しい批判の目が注がれています。

地方自治体に、財源や権限を与えたら、何をしでかすかわからないとか、与えても何をしたいいやらわらない「猫小判」のような「行政」だと思われているようでは信頼は得られません。

地方議会において、最も重要な任務は、「行政の監視機能」といえます。
健全な財政、民意を反映した政策実現など自治体運営を監視できる能力を持った議会があるということが、信頼される自治体の条件ともいえます。

しっかりとした議会をつくるため、全力を尽くしていく決意です。

県議会に“風穴”をあける男たち。

「自民党新政会」が、新たな決意で再スタート!



この度、突然、全員の責任者たちが異国で発生し、自民党会派が分裂するという、前代未聞の事案が起きました。手戻もなく、意味不明のため、県民の皆様にも何の御用もできず、大変ご心配が延びおかけしました。

地方自治を取り替える環境は難しく、地方自治の存在意義、価値が問われている中で、国を不慮にもつながらぬ行動と言わねばなりません。

私たちは、これを機に、全県民の期待に応え、古い慣習体質を革直し、政治格闘の能力、行政監視機能の強化、知事と近い合う政策提案など、地方自治に与えられた任務をしっかりと果たして行きます。

ぜひ肩が固れて、シャープになった自民党新政会が新たにスタートします。

「県議会に風穴をあける男たち」として期待して下さい。

7つの基本方針

- ① 県民の暮らしを第一に考え、県民生活の向上に努めます。
- ② 県民生活の向上に努めます。
- ③ 県民生活の向上に努めます。
- ④ 県民生活の向上に努めます。
- ⑤ 県民生活の向上に努めます。
- ⑥ 県民生活の向上に努めます。
- ⑦ 県民生活の向上に努めます。



新しい風を創る 自民党 新政会

県民からのパブリックコメントを募集します。県民の皆様、ご意見など、下記のメールアドレスまで、どしどしお寄せください。
新政会ブログ <http://jimin-shinseikai.net/>

私たちは一円以上の領収書を全面公開します。

会派分裂報道を受けて、説明責任を感じ、再スタートの決意をこめて出した福井県初の議会会派新聞広告

政務調査費

議会改革は待たなし

改選後、自民党新政会は新たに新人議員を加入し、を二十八名でスタートしました。新執行部の元、議長人事など組織議会もスムーズに終え、会派代表者によるテレビ出演するなど第十六次(一次は四年間)は、順調に船出しかのように思えました。

しかし、その後、五月二十四日、自民党新政会から十八名が家出するかのようになり、黙々と姿を消し、「県議会自民党」という新会派を結成しました。「何があつたのか、さっぱりわかりません。一般的には、会派の役員に反発して会を飛び出して行くようなことはあるのですが、会派の代表者が出て行くというのは理解できません。何らかの思惑があるのだろうと思いますが、議会組織は、会派ごとの人数割りで選出し

ているので、組織議会を終えた後に、会派構成を変更すると、大きな混乱が生じます。

正副議長は本来、それら

を止めるべき立場で公正無私を貫かねばなりません。選出された後、会派を移動するなどというのは「確信犯」的な行為として、批判されます。説明責任が求められる時代に、議会が説明できないことをするようでは話になりません。

「議会改革は待たなし」です。私たちは、これをいい機会として、一気に議会改革をすすめることを決意し、新たに二名の新人議員の加入を得て、十二名で自民党新政会を再スタートしました。

政務調査費の全面公開

「政治とカネ」、地方議員の政務調査費について、その用途について、疑惑がもたれました。福井県議会に対しても、オンブズマンなどから内容の公開が求められていましたが、未公開のままです。

現在、政務調査費は、会派ごとに請求し、支給されるものです。私たちは、政務調査費の身を全面公開することとしました。



(県会新勢力図をどうとらえるか、ザ・タイムリーふくい 5/19 放映) この5日後、無言で家出。幻の執行部となる。

西川専制政治ではないのか

一問一答 ガチンコ90分

予算特別委員会 総括質疑



知事のマニフェストは誰が承認したのか

定例議会は、知事の提案理由を受けた後、党派代表質問に始まって、一般質問、常任委員会を経て、最後は党派持ち時間による予算特別委員会が行われますが、その最終は党派ごとの総括質疑となります。

6月定例会では、90分間、自民党新政会の総括質疑者として、特に今回は、改選後の初議会ということもあって、知事の基本姿勢について、知事とサシでガチンコで議論を闘わせることとなりました。

党派としては、知事の基本方針ともいへば、「マニフェスト」(新元宣言)が選挙に当選したことを持って、内容全てが承認されたかのように、議会の同意を得ることもなく行政方針として運営していること、中長期計画など中長期ビジョンを作成しないこと、成果主義を掲げながらも、目先の小さな数値目標はクリアしても、農業政策などは、根本的にはシリ貧となっていることなど西川県政の基本的な問題として、その政治姿勢、行政手法を問います。

マニフェストは手段であつて

「マニフェスト」は、「はっきり示す」のイタリア語が語源です。マニフェストは「政策」の公約集で、知事、市町村長に就任したら何をやるか、任期中の政策公約について、期限つき、財源つき、数値目標つきで有権者と約束する。従ってマニフェストは当選者にとって、最高位の政策です。

しかし、何を目標に設定し、何を改革するのか、その中身について吟味しなければなりません。

マニフェストと称しても、従来の公約と五十歩百歩の「マニフェストもどき」になっていないか監視が必要です。

西川知事が今選挙で掲げたマニフェスト「新元宣言」は、数値目標を掲げている項目は少なく、「マニフェストもどき」に近づいてきた感じがします。

ところで、県民の何人の人が中身を読んだのか、知っているのかという疑問があります。県民が知事に一票を投じたのはマニフェストの中身が良かったからなのでしょうか、選挙の投票動機は様々あり、相手候補との比較によって、消去法で選ばれることだってあります。そういう観点に立つと、マニフェストの内容が全て支持されたというには無理があります。

従って、当選後は、マニフェストを元に、不足している内容や具体性に欠けているものを県民や職員や議員とともに補強、精査し、4年間の基本計画とか行動計画としてまとめ、議会の承認を得て、スタートするのが、あるべき姿であると思います。

この点について、知事は「マニフェストに書かれてある内容は、いずれ予算として計上されるので、その時、チェックしてもらえばいい」という考えです。

しかし、全体計画の中での個別予算であり、予算が計上される段階では、身動きが取れないまで準備、調整した後なので、予算を否決すれば、それまでに費やされた膨大な時間や労力などがすべて無駄となりかねないものだってあります。

政策形成段階からの参画を

よく、「なぜあんなところに公共施設を建設したのか」といった声も耳にしますが、政策形成段階から、総合的な視野にたった多くの知恵が参画できていないということがではないでしょうか。

国が作って、自治体が行う。役所がつくって、住民が従うというこれまでの中央集権、「お上」意識を未だ垣間見るときがありますが、計画作成段階から、民間企業、NPO、市民との協働(コラボレーション)が必要です。

福井県は、なぜか「共働」という造語を用いるのですが、「協働」の意識が希薄なのか、意味がよくわかりません。

よりオープンな議論を求める姿勢こそ最も重要です。知事が一方的に作って、形だけのアリのバイ的な意見を求め、実行するというのでは、「協働」とは逆の専

なぜ「協働」でなくて「共働」か

農林水産部 県年間予算

440億円の成果とは...



福井県の食料自給率100%をめざして

知事は中長期の将来ビジョンを示すべし

制政治になりかねません。

生活者起点やごいじ

「県庁に入ったのは、親の財産を守らなければいけないからだ」とか「夜も寝ないで、汗水垂らしてやるよりも、安定した職場でゆとり生活を楽しみたい」として県庁職員になった。改革、改革と言ったって、そんならいつてきませんよ」と言われたことがある。

実際のところ、ある優秀な職員から「知事、誰も喜ばないことをどつてそんなにするのですかと真顔で言われ、落ち込んだこともあった。こうした言葉は、生活実感から出ているので非常に説得力がある。この従来型の県庁職員の意識に打ち勝つために私は何度も呻吟した。

私は職員に対して「できない理屈をいっな」、「間違っていることを恐れず、間違いをしないようにすることを恐れよ」と口を酸っぱくして言った。

マニフェストを提唱した三重県の北川前知事は、「生活者起点、納税者の視点でものを考え行動するよう県職員に徹底して意識改革を求めました。

納税者としての生活者は、当然行政サービスを受ける権利がある。そのとき、受け手の側に立つて県が行政サービスを行なうのは当然のことだが、同時に、生活者は統治主体でもあり、生活者こそが地域や行政における主役であり、自分たちが参加して作るという発想がないと協働（コラボレーション）という考え方はできません。

ある。そのとき、受け手の側に立つて県が行政サービスを行なうのは当然のことだが、同時に、生活者は統治主体でもあり、生活者こそが地域や行政における主役であり、自分たちが参加して作るという発想がないと協働（コラボレーション）という考え方はできません。

生活者起点は、従来の「行政が」「職員が」という行政の一方的な発想を、「生活者が」と一八〇度変えていく。

職員が自主・自立的に考え、行動する良循環をどつくるのか、西川知事のリーダーシップが問われています。

成果主義とは

たとえば、何かの行事を開催した場合、予算額が資源投入量（インプット）で、五〇〇人の聴衆があったというのが事業量（アウトプット）、それがどれだけ県政に好ましい影響を与えたかというのが、事業効果（アウトカム）になります。

しかし、「行事」は、成功しても、全体としての成果が出てくるのか、ということについては、中長期的に何をめざしているのかその目的、目標の設定が正しいか、ということが大事です。

西川知事は、「中長期計画については、めまぐるしい時代変化の中で、膨大な時間をかけて計画を作っても、すぐに変更しなければならぬ」と、中長期ビジョンの作成を拒否しています。

しかし、将来のイメージ図も示さないようでは、船がどこに向かっているのかわかりませぬし、行政というのは、総合的なものですから、全体を包括した基本構想は必要です。

福井県には中長期の将来ビジョンがありません

西川知事は、「道州制に反対」を唱えました。それも一つの見識でありますが、では、どうして福井県を創造するのか、どうして地方分権の受け皿を作るのか、道州制に周囲が参加していった場合、取り残され、いつのまにか、嶺南、北陸の分割統治のようなことにならないか危惧されます。

そうした点からも、福井県の将来ビジョンは必要です。

今年度の農林水産部の予算は、職員の人件費を含め四四〇億円となっています。

毎年、これだけ予算を投じてても、農林水産業に明るい展望が一向に見えてきません。これは、これだけ予算を使っても、問題解決ができていないということです。予算の使い途が的はずれなのか、予算規模が小さいのか、本来の意味での処方箋を見つけないまま、年中行事を繰り返してはなりません。

政治家にとって、大切なことは中長期の将来ビジョン、夢を語ることだと思えます。

道州制に反対するのはいいけれど...

西川知事が「道州制に反対」を唱えました。それも一つの見識でありますが、では、どうして福井県を創造するのか、どうして地方分権の受け皿を作るのか、道州制に周囲が参加していった場合、取り残され、いつのまにか、嶺南、北陸の分割統治のようなことにならないか危惧されます。

そうした点からも、福井県の将来ビジョンは必要です。

今年度の農林水産部の予算は、職員の人件費を含め四四〇億円となっています。

毎年、これだけ予算を投じてても、農林水産業に明るい展望が一向に見えてきません。これは、これだけ予算を使っても、問題解決ができていないということです。予算の使い途が的はずれなのか、予算規模が小さいのか、本来の意味での処方箋を見つけないまま、年中行事を繰り返してはなりません。

政治家にとって、大切なことは中長期の将来ビジョン、夢を語ることだと思えます。

道州制に反対するのはいいけれど...

道州制に反対するのはいいけれど...

地域の担い手にまかせた方がいいのではないかと、即ち、予算を分配するというような大胆な見直しをすべきではないかということですが、

県の農林水産部の年間予算である四四〇億円を一〇〇万円ずつ分配すれば四四四四千戸（団体）に、一〇〇万円ずつ分配すれば、四四四四戸（団体）に対応することが出来ます。

本当の意味での成果主義とは、目先の単年度事業の評価ではなく、将来的に生きる力になっていくかどうかということでしょう。

国の方針に基づいて、「品目横断的経営安定政策」を導入し、「集落営農」すれば、グローバル競争に打ち勝ち、未来に展望が持てるのでしょうか。それによって、従来の担い手や認定農業者を殺すような結果も招いています。

戦後、農地解放して、今、農地集積して、次は何をやるのでしょうか。企業が農地を買い集めるのでしょうか、しっかりと将来ビジョンを描かず、小手先の行事は無意味です。

国の補助金をもらうことが農業政策か
国の農業政策に誘導されて、補助金をもらいに行くことが、地域の農業を生かすのかどうか、極端に言えば、国や県が余計な政策を考えるよりも、本当にやる気のある

二〇〇六年度の食料自給率は三九％、ついに四〇％を切りました。国の食料自給率は都道府県単位での地域自給率の集積に他ならず、福井県の地域自給率一〇〇％をめざし単年度ごとの数値目標を示して取り組む必要があります。

全国での三分の一がこれらの目標設定をしており、随分前か

ズバリ そこが聞きたい! 新緑に聞く



参議院議員選挙で自民党が歴史的な大敗北を喫したことについて、どのように考えますか、また、県議会の自民党派が分裂したと聞きますが、そのことによって、今後、議会はどのようなものですか、聞かせてください。(匿名 五〇代女性)

「今回の参議院選挙で政権政党の自民党は歴史的な大敗北を喫しました。」

有権者によるこの判断結果をどうみるべきなのか。与党惨敗、野党勝利をもたらした真因ということについて深く思いをめぐらせてみれば、与野党どちらの側にとっても過大評価、過小評価ともに許されず、まして野党側の手放しの樂觀・自賛論は通用しないものであることは明らかどころです。

自民敗北の深層というものを経済社会の構造変化をも視野に入れて、客観的に検証する姿勢が求められているのではないのでしょうか。(略)

これまで自民党政権永久化の基盤をなしてきた集票マシーンが、各地の選挙区においても、個別の業界でも、空洞化が進んでいた事実が大きかったと思います。」

この文章は、経済評論家、内橋克人が、今から九年前の一九九八年七月二日の参議院選挙後に、「問い直される「改革」の本意」、「自民惨敗の深層」と題して、同時代への発言「日本改革論の虚実」のはじめに書かれているものです。

今年の参院選挙後の評論としても通用する内容です。

この時点で、自民支持基盤が力を失っていました。背景には九〇年代に入ってから大きく進んだ経済構造の変化がありました。

昨年五月に出版された、自民党代議士、堀内光雄氏著「自民党は殺された」から、引用します。

小泉首相の経済政策は、優勝劣敗・適者生存の古典的な市場原理主義である。その結果、いまや「下流社会」という言葉すら生まれた。いつの時代、どの国でも、国の安定を支えるのは中流階級の部厚さである。それが「一億鎧中流意識」はいまいずこ。上流と下流の二つに分断が進んでいる。「この国のかたち」として、決して望ましいものとは言えない。

だから、一握りの勝者の陰に、額に汗しても暮らしが良くならない国民がたくさん生まれてきた。そこに目を配るのが本



匿名女性のイメージ

来の政治であるが、弱者への思いやりに欠けた小泉政治は、日本の国から「助け合い」や「譲り合い」といった共生の心をどんどん失わせたしまった。

仁のない政治、義のない政治は、日本人の心を殺伐とさせ、子供までがはじめや仲間はずれ、拳の果てには殺人まで犯す世の中になってしまった。少し前までは考えられないほど道徳や思いやりの心が欠如した社会になってしまった。

それにも増して最大の問題は、言論の府である国会でも小泉首相の強烈な圧迫感によって、物言えば唇寒しの状態になっていることだ。国会や党内での自由闊達な意見が抑圧され、一方的な考えを押しつける誤った道を歩んでいる自民党を一日も早く正常な姿に立ち戻らせ、本当の国民民主党に再建しなければならぬと思うこと切なるものがある。」

「拒否できない日本」(岡岡英之著)には、アメリカから日本に対する「年次要求書」の中身が書かれてあります。それによれば、日本で言う「改革」はほとんどアメリカの要求であることがわかります。「郵政民営化」もその一つです。

アメリカのルールを「グローバルスタンダード」と称して、国際的な統一ルールに仕立て上げ、そのルールに踊らされた結果、日本自身を見失ってしまうように思えたりなりません。

特に金融では、他国の民が汗して生み出した富を、金融という手段で、アメリカに還流させようとしているように思えます。

「売れるものが正しい、消費者が正しい」「効率性、競争力」という倫理感で、地方の農山漁村や地域の商店街が崩壊していく状況と、「美しい日本」、「愛国心」があまりにマッチしないように思えてならないのです。それは、日本の歴史や伝統・美を重んじる「保守政治」とは何か、ということにもつながります。

さて、今回の質問の趣旨は、参議院選挙で自民党が惨敗したことと、県議会における自民党派との関係、自民党派が「分裂」したことの影響ということだろうと思います。

地方議会は政党政治ではない

さて、今回の自民党の歴史的敗北の要因は、年金問題、政治とカネ、閣僚の問題発言、地方切捨、格差問題、会期延長しての強行採決など既にメディアが伝えています。

これは、一時的にお灸をすえた

地方自治は、国会と違って議院内閣制ではなく、議員の中から首長を選んでいるわけではありませんが、従って、首長に対する与野党と言った関係も成り立ちません。地方自治の二元代表制とは、首長対議会という関係ですから、ど

こちらかといえ、議会には、首長・行政に対する批判的検証能力(監視、代案提案能力)が求められており、野党的立場といえます。

ところで、地方議会の会派ですが、別に政党別に会派をつくる必要はありません。

一人でも会派届けして、国会の政党名を名乗る政党もありませんが、国会の政党別に地方議会が組織されることには、疑問があります。

それは、今日、地方分権論議になるとよくわかるのですが、中央対地方という構図になるからであり、地方自治に政党色を持ち込んで、イデオロギー論争をする必要がほとんどないからです。

むしろ色分けするならば、真面目に地方自治を考え、勉強するしかないかといった方が良いでしょう。

会派分裂と今後の議会運営

自民党会派が二つになって、これからどうなるのか、ということなのですが、特に心配されるようなことは何もありません。むしろ、県議会は、県民にとっても歓迎されるほど活性化し、

結果として、今回、保守系第二会派が存在することとなり、第一会派が過半数に達していない状況となっています。

その面で、今回の倫理条例のように、第一会派が反対しても、可決成立する議会となつたわけですが、これは、長く福井県議会においてなかったことであり、ある面では、健全な議会といえます。

考えて見れば、これまで、福井県議会では、第一会派一辺倒で、議会内チェックをするしつかりとした第二会派が存在してこなかったことが、議会改革の遅れにつながったともいえます。

幹事長として
第二会派の幹事長をお引き受けすることになって、責任の重さを痛感しています。

会派全員のことはもとより、他会派との関係、知事部局との関係、行政監視、政策方針など、気の休まる時がありません。

「乱世」の時代の幹事長と割り切らねばなりません。扇の要」を自覚し、全精力を尽くし

て、民意を反映した画期的な福井県議会を創っていきたいと思

います。

六月議会の成果は、大きかったと思

いますが、よりオープンに県民の皆様と連携してがんばりたいと思

います。

マスコミ報道について
地方自治を取り巻くマスコミの報道のあり方も重要です。

ローカル紙は、時に、県庁の広報紙のようであったり、議会記事はつまらないベタ記事であったり、読む気にならないのが大半です。

地方議会は国会の下請けではない

臨場感あふれる記事であり、県議会に関心を持たせる、という意味で「国会をけん制」を連載し



マニフェスト論争突発。
斎藤新緑氏(自民党新国会)は、一時間にとり、西川知事のマニフェスト県政を厳しく追及した。

マニフェスト県政 厳しく追及

ビジョンを不さないと、県民日本国にだって全体的な政策は福井県がどこに向かっているのか分らない。西川寺に相対するよう求める斎藤論者も興奮を抑えきれないの

白票(賛成)二十一、青票(反対)十八。政治倫理条例案をめぐる議院内の攻防は、最終日でもつれた末、決着した。

よみがえった「議会らしい議会」

会派分裂で一気に活性化された。県議会取材して二十余年。久しぶりによみがえった「議会らしい議会」を目にし、かつてある長老議員(故人)がよく口にしていた言葉を思い出した。

これまでも、多数を占める自民系会派が主導権を握り、なれ合いムードもあった県議会だが、

時代おくれ

作詞 阿久悠

作曲 森田公一

一日二杯の 酒を飲み
 さかなは特に こだわらず
 マイクが来たなら 微笑んで
 十八番を一つ 歌うだけ
 妻には涙を 見せないで
 子供に愚痴を きかせずに
 男の嘆きは ぼろ酔いで
 酒場の隅に 置いて行く
 目立たぬように はしらがぬように
 似合わぬことは 無理をせず
 人の心を見つめつづける
 時代おくれの 男になりたい
 不器用だけれど しらけずに
 純粹けれど 野暮じやなく
 上手なお酒を 飲みながら
 一年一度 酔っぱらう
 昔の友には やさしくて
 変わらぬ友と 信じ込み
 あれこれ仕事も あるくせに
 自分のことは 後にする
 ねたまぬように あせらぬように
 飾った世界に 流されず
 好きな誰かを 思いつづける
 時代おくれの 男になりたい
 目立たぬように はしらがぬように
 似合わぬことは 無理をせず
 人の心を見つめつづける
 時代おくれの 男になりたい

新緑の気ままにトック

TVドラマ「時間ですよ」、「寺内眞太郎一家」など、多くのヒット作を手がけたテレビ・プロデューサー、久世光彦に「マイ・ラスト・ソング」という本がある。

文字通り、今際の際に聴きたい曲を一曲選ぶとしたら、あなたは何を選ぶかということであるが、そんなことを思うようになったのは五十になってからだという。

五十の声を聞くと、そろそろ先行きの残り時間を動定し始める頃合いなのか、ぼちぼちマイ・ラスト・ソングの選択もしておかねばなるまい。

昨年、その彼が亡くなった時、同じ世代の小林亜星は、ラストソングを持って駆けつけることが出来なかったことを「断腸の思い」と書いているが、追悼番組では「時間ですよ」の中で堺正章が歌ってヒットした「街の灯り」が流れたようだ。



竹内陽介選手、旭副知事とリングへ

そばに誰かいないと 沈みそうなの胸 まるで潮が引いたあとの 暗い海のように...

この歌についても、久世は3・3・3とみごとに三文字で連なっていく歌と書いている。

その「街の灯り」の作詞は、久世光彦と多くの仕事を一緒にして相互証人だという阿久悠。

阿久悠作品は幅広い。手がけた楽曲は五〇〇曲以上、大ヒット曲を連発し、日本レコード大賞も五回受賞している(「また逢う日まで」、「北の宿から」、「勝手にしやがれ」、「UFO」、「雨の慕情」)。

「ブルースを深々 ラークをスバスバ 五十歳まで生きるかなあ そんなに生きてどうするの 八八八八... よろしく阿久悠です よろしく久世光彦です。」
 二人にとっては、七十歳をクリアしての逝去であるから、大

往生といつてよいのだろう。

「ベトナムに平和を！市民連合」通称「ベ平連」運動で有名な市民派活動家は、憲法改正を唱える首相に、「憲法を遵守する」責任を負っている国会議員の役目を果たしていないと批判し、昨今の状況を戦争前夜の昭和初期と酷似していると言っていたという。

ベ平連との関係で言えば、一九六六年、今はなき、いずみたく、岡本太郎、桑原武夫、久野収、開高健、そして松本清張らとともに、「ワシントン・ポスト」紙へベトナム反戦の意見広告を！と呼びかける発起人に名を連ねた人に淡谷のり子がいる。(今年、生きていれば一〇〇歳)

「お客を泣かせるのがプロでしょ、自分が泣いてどうすんの」。じよっぱり(津軽弁で、強情者)の意)の性格と相手構わぬ放言でずいぶん誤解も受けてきた。

だが、その「じよっぱり」が一度だけ客の前で泣いたことがある。太平洋戦争の末期、国内の基地や前線へ慰問に回っていたころだった。白い鉢巻きをした若い兵隊が客席の隅にかたまっていた。「特攻隊です。途中で命令が下りた時はお許しを」。上官の



言葉が舞台上に立つてからも気になった。なんて時に巡り合わせってしまったのか。動揺を隠しながら歌い進むうち、一人が立ち上がるのが目の端に入った。若い兵隊は舞台の前まで来ると、にっこり笑って敬礼した。子供のような顔だった。そやって一人ずつ去っていった。

歌うことができなくなった。「すみません。少し泣かせてください...」。淡谷さんは客席に背を向け声を出して泣いた。国家の命令で多くの若者が死んだ。無垢な魂が戦火に消えていった。自分を大事にしない今どきの若者は、だから嫌いだ。「十九や二十歳で所帯やつれしたみたいな顔して」

淡谷さんの歌を聞いて死んでいった若者たちの胸に、その歌はどんな響きを残したのだろうか。「楽しいことばかりだったわ、戦争を除けば。いまの世の中はだめよ。個性と知性がないもの。あなたたち、お気の毒ね。こんなつまらない時代を生きているなんて」。

WBC世界タイトル前哨戦がサンドームで開催され、三国町の孫となる清水智信選手、息子となる竹内陽介選手が出場して、両者とも勝利を収めた。

石丸ジムの会長から要請を受け、勝利者トロフィーを手渡すことになり、おかげで、ボクシングのリングに上がる初体験を味わわせていただいた。

元世界チャンピオン輪島功一氏の楽しいごあいさつも聞くことができました。

百人百様の青春があり、人生がある。保険ばかりかけて生きるようではつまらない。久しぶりにファイティング・ポーズをとってみた。

ブルースの女王といひながら、淡谷のり子は東北弁。かつて、顆粒みそ汁の袋を手に持ち「大したまげた！」とせりふを言うのがありました。

残暑厳しき日の会話は？
 又カタペー(暑かったらう)タエンタ アチカツタ(たいそう暑かった)。

残暑お見舞い申し上げます。おかげさまで、こうしてまたお会いすることが出来ました。「ほっとらいん」五五号、大変お待たせしました。盆休みに根つめてやつと書き上げました。これが